

※今月のみ受注の書目です。

中国政治 ご担当者さま

慶應義塾大学東アジア研究所選書

近代中国の新疆統治

二〇世紀前半の多民族統合再編 (2022 年 9 月中旬刊行予定)

木下恵二 (常磐大学総合政策学部准教授) [著]

A5 判上製 / 264 頁 税込予価 4,950 円 ISBN978-4-7664-2841-4 C3031

👉 ココに注目!

- ・中国の多民族統合のありかたのルーツを、清朝終焉から 1950 年代までの新疆地域の統治から明らかにする。
- ・伝統的統治の崩壊からソ連型民族政策の導入、初期共産党時代までの変遷から異民族統治の形成過程をさぐる。

近代以降の中国の多民族統合のあり方を、辛亥革命から初期毛沢東時代の新疆地域の政治状況に焦点を当てながら明らかにする。ソ連型民族政策の導入を経験し、「中華」という伝統的アイデンティティと秩序の安定維持のための「自治的」状況の容認という「帝国の遺産」が新疆地域においてどのように作用してきたのかを考察する。現在の対新疆ウイグル政策の歴史的背景、また現在の周辺地域統治のありかたの背後にある「偉大な中華民族」イデオロギーを理解する一助となる一冊。

対象 中国・東アジアを対象とする研究者・学生 / 民族問題に関心のある一般読者

類書 熊倉潤『民族自決と民族団結』(東京大学出版会)

【著者紹介】

常磐大学総合政策学部准教授。1971 年生まれ。専門は中国近現代政治史。慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程単位取得満期退学、博士(法学)。

おもな著書に『新版 5 分野から読み解く現代中国』(共著、晃洋書房)『改訂版 岐路に立つ日中関係』(共著、晃洋書房) などがある。

👉 主要目次、注文書を裏面に掲載! ぜひご確認ください!

【主要目次】

はじめに 帝国継承国家としての「中国」

1. 周縁統合の三つの近代的モデル／
2. 帝国の遺産／
3. 本書の構成と史料について

第1章 伝統的統治の動揺と崩壊——楊增新の統治とその限界

1. 伝統的統治の動揺と漢人地域権力の成立／
2. 楊增新の国家観／
3. 伝統的統治における行政システムの集権化／
4. テュルク系住民の「新方式」教育運動と楊增新の統治政策の矛盾／
5. 愛国による伝統的統治の凌駕

第2章 盛世才政権におけるソ連型民族政策の導入と「民族自治」

1. 現地住民の多様な意識の噴出と統治体制の再建／
2. ソ連型民族政策の導入／
3. 民族語教育政策と南疆ウイグル社会の自治／
4. 民族自決的統合の試みから抑圧体制へ

第3章 盛世才による肅清と民族政策の破綻

1. 盛世才は何をめざしたのか／
2. 盛世才による大規模肅清／
3. 抗日体制下の南疆／
4. 抗日ナショナリズムによる支配

第4章 国民党政権の新疆統治の論理——1940年代

1. 変化する辺境統治政策とその論点／
2. 『中国の命運』に見る種族主義の二つの政策的可能性
3. 呉忠信の統治論理／
4. 国民党政権内部の新疆統治をめぐる議論／
5. 張治中の新疆統治論理
6. 同化・民主主義・自治／
7. 「自然な同化」か「戦略的自治」か

第5章 国民党政権の新疆統治政策

1. 国民党政権の新疆統治の論理と実際／
2. 保甲制による支配体制の再編／
3. 新疆省連合政府による統治とその崩壊／
4. 2つのナショナリズムの調和の失敗

第6章 共産党政権の新疆統治における民族と階級——1950年代

1. 個別少数民族地域からの視点の重要性／
2. 各民族友愛協力の論理／
3. 民族自決をめぐる対立
4. 社会改革をめぐる中央・地方の対立／
5. 社会主義集団化のモデルとしての新疆生産建設兵団／
6. 漢族の「代行主義」

おわりに 民族自決的統合と国民的統合とがせめぎあう帝国継承国家・中国



ご注文は FAX で！ 03 — 3451 — 3124



番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	税込予価	部数
新刊委託		木下恵二 著 慶應義塾大学東アジア研究所選書 近代中国の新疆統治 一二〇世紀前半の多民族統合再編 ISBN978-4-7664-2841-4 C3031	4,950 円	★★

★1つで「500部」を表します